

気象界消息

1. グッドマン氏来日
オーストラリア気象局の測器主任 G.S. Goodman 氏は10月24日、メルボルン大学・気象局共用のレーダー (10 cm 波) の検収のため来日した。製作は三菱電機。
2. 荒川・今井両博士ニュージーランドへ
ハリケーンセミナーに出席するため、10月31日、荒川秀俊・今井一郎の両氏はニュージーランド・オークランドに向け出発、11月16日帰国した。
3. 寺田博士 ローマへ
長官付寺田一彦氏は家族同伴で、約2年間の滞在を予定しているローマへ11月4日出発した。国連WMO関係業務のため。
4. ホルツ氏来日
アンカレジの気象台長、H. Foltz 氏は11月8日に来日した。慣熟飛行のため。
5. 大谷和夫氏渡比
レーダー指導のため、名古屋地方気象台の大谷和夫氏は、11月9日3カ月の予定でマニラに向け出発した。
6. コロンボ計画研修生
インド気象台の測器部 (Poona) の気象技術者スリバスタバ (G.P. Srivastava) 及びフィリピン気象局のタバング (Tapang) . コンティ (Conti) の両気象技術者がコロンボ計画による研修のため来日した。約6カ月間、スリバスタバ氏は高層測器及びレーダー等電子工学関係測器、タバング氏は航空気象、レーダー気象、コンティ氏はレーダー機器について研修する。
7. 津波警報
10月13日、気象庁ではエトロフ沖地震によって津波のおそれがあると警報した。しかし幸にも津波は小さかったため被害は海苔その他の沿岸漁業に多少の損害を与え

たととどまった。なお洋波警報はハワイでもだされ、住民が退避した。

8. 秋田、豪雨
10月15日、秋田県南部地方に集中豪雨があり、191戸が浸水の憂き目にあった。
9. 台風二つ
硫黄島の南西700mbに台風19号が、マーカス島の西北西300kmに台風20号が、10月18日にあらわれたがいずれも日本へ直接影響せず去った。
10. 大山に雪
10月18日に中国地方の名山、大山に今冬初の冠雪があった。例年にくらべて4日おそい冠雪という。
11. 北米にハリケーン
大西洋に発生した今年7号目のハリケーンが、ノースカロライナからバージニアの沖をとおりぬけた。被害はなかったとのこと。
12. ブラジルと西イランに洪水
10月17日、ブラジル南部で、10月24日、西イランでそれぞれ大雨のため洪水がおこったとのこと。
13. 初冬の風、吹きあれる
11月8日夜から9日朝にかけて、日本全国にわたって今冬、初めての季節風が吹きあれ、各地で被害をだした。
新潟では高波にさらわれた人があり、6隻の船が流失し、青森県のリンゴの被害は6千万円にのぼったといわれる。
14. 桜島の爆発
10月中の桜島の噴火は219回にもものぼったと報じられている。

中国学術代表团招聘準備状況について

日中学術交流委員会報告

1955年秋、郭沫若氏を団長とする学術代表团を迎えて以来、久し振りに中国学術代表团の来日が決まりました。今回の学術代表团の構成は、自然科学では気象、物理、社会、人文科学では古代史、近代史、考古学、文学、言語教育、現代中国の諸分野の者各1名、それに随員、通訳を加えた約10名からなる総合的な学術代表团で、東京、関東をはじめ各地の学術中心地を訪問することにな

っています。気象学会では、これら諸分野と協調し今回の中国学術代表团を迎えるに十分な準備体制を整え学術交流を内容あるものとするため、気象学会に日中学術委員会を正式に結成しその準備にあっております。翻ってわが国と中国気象界の関係をみますと、1954年10月、前和達気象庁長官の訪中、1957年2月、塗長望気象局長、道九章地球物理研究所長の来日、続いて気象学会からは、1957年6月、佐貫、岸保、毛利の諸氏の訪中、1960年11月には神山氏が日中友好協会の訪中使節団の一員として訪中され手厚いもてなしを受けております。また1957年